

○提案内容

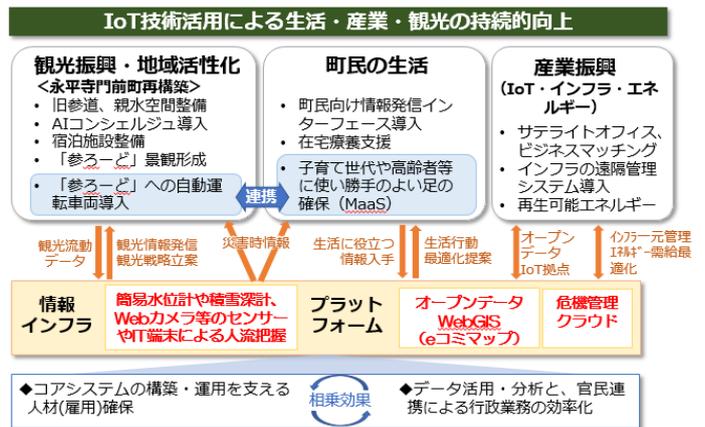
**(1) 実現したい都市のビジョン**

「IoT技術による生活・産業・観光の持続的向上」  
 このビジョンの実現にむけた基盤となるのが、「まちのリ・デザインに向けた取組と一体となった情報基盤の整備」と、行政・民間が保有する(新規及び既存の)データを共有する「生活の質向上・産業振興・観光振興に向けたサービスを創出するプラットフォームの構築」である。

- 【生活】子育て世代、高齢者等に対し利便性の高いモビリティの確保に向けた交通基盤の整備や、人・自然等関連データの取得及び既存データの活用による生活行動の最適化、災害時の安全確保に向けた対策や情報提供
- 【産業】IoT推進拠点を核とした新たな産業の誘致、インフラの一元管理と再エネ導入等の持続可能な自治体経営に向けた産業の振興
- 【観光】大本山永平寺に向かうルートの景観形成も含めた門前まちなみの再構築と、観光情報のオープン化・活用の仕組みの構築

このビジョンを具現化するための最初のステップとして、当面は以下の取組の方向性が考えられる。

- ①ベースとなるまちづくりと一体となった情報基盤の整備と情報プラットフォームの開発  
 子育て世代の定住や高齢者の生活を守るための拠点・交通・環境整備、IoT推進による産業振興観光交流拡大等まちづくりと一体となった情報基盤の整備を推進するとともに、情報基盤から得られるデータ及び既存のデータを共通プラットフォーム上で共有・活用するためのシステム開発
- ②IoT推進拠点の形成  
 IoTを推進する新たな活動拠点を整備するとともに、共通プラットフォームに集まる各種データを活用して新たな提案や技術開発が可能な人材を誘致、育成するとともに、生活、産業、観光の観点から新たなサービスを創出・支援



**(2) 新技術の導入により解決したい都市の課題**  
 ※課題については、別紙3の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください(複数ある場合は、課題ごとに対応を記載ください)

解決する課題のイメージ	課題の分類
<p>①防災                      行政に集まる防災情報を住民に迅速かつ効率的に伝えるためのシステムが必要である。そのためには、防災情報を含めた様々な行政情報をワンストップに入手することが可能なツールと、住民がそのツールを使いこなせる仕組みづくりが必要である。</p>	(ウ)
<p>②交通・モビリティ                      永平寺町では高齢者等の移動弱者の移動手段の確保のため、自動走行の実用化に向けた実証実験を行っている。また、交通・物流事業者等の不足が課題となっている中で、効率的で利便性の高い移動サービスを実現するため、異なる輸送交通プラットフォームを連結させた新しいモビリティサービス(MaaS)の構築することが必要である。</p>	(ア)
<p>③行政効率化                      人口減少や高齢化による財政緊縮化に伴い、行政事務や生活サービスの効率化が求められている。窓口対応など定型業務については、効率、省力化を図り、複雑かつ多様化している住民ニーズに対応するため、企画系業務に注力する必要がある。</p>	(キ)
<p>④医療・福祉                      高齢化の進展や、介護との連携から、在宅医療に対する需要が増加しているが、対応可能な医療機関や総合診療医が不足している。</p>	(カ)
<p>⑤観光・地域活性化                      大本山永平寺を訪れる参拝客は年間50万人を超え、観光は基幹産業となっている。しかし、旅行形態の変化(団体旅行から個人旅行、宿泊旅行から日帰り旅行へのシフト)などにより、大本山永平寺を訪れる参拝客はピーク時の3分の1程度になっている。</p>	(オ)

**(3) 具体的に導入したい技術(既に想定しているものがある場合)**

**①ペースとなるまちづくりと一体となった情報基盤の整備と情報プラットフォームの開発**

最初のステップとして、交通基盤の整備や景観・環境整備等と一体となったWebカメラや簡易水位計・積雪深計の整備を推進する。その上で、これらデータに加え、GISを活用した危機管理クラウドとeコミマップ(いずれも防災科研)のシステムを組み合わせることで、平常時はインフラの遠隔一元管理が、災害時には危険個所の発見から公開までをワンストップで実現できるプラットフォーム(コアシステム)を導入する。さらに、このコアシステムに、行政のみならず民間事業者が保有する様々なデータを搭載していく。

(データ例：自動運転車やバス・タクシー等の位置情報、観光地の駐車場の空き状況、医療機関での待ち状況 等)

**②インターフェース**

コアシステムから配信・利用が可能な情報へアクセスするためのインターフェースとして、町民向けには、ポータルサイト(パソコン・スマートフォン等で閲覧)と、町内で普及率の高いCATVを活用したシステムを導入する。観光客向けには、デジタルサイネージ、AR等を活用し、即時性の高いまちの情報発信(災害情報含む)、多言語化を効率的に実現する。

**③データ・システムを活用する仕組み**

上記により収集・統合されたデータを活用し、観光振興や町民の生活、インフラやエネルギー管理等における様々な課題の改善に資する提案を生み出す仕組みを構築します。データを活用することで、以下のような新しいサービスの開発が可能になると考えられる。

(例)

- ・災害時に、被災・復旧状況や避難所の状況等を迅速に一元化することで、観光客など一時滞り者も含めた被災者の移動や安全確保の最適化を図る。
- ・行政職員の事務処理状況をデータから解析し、行政サービスの改善・効率化の可能性を検討してシステムに反映する。
- ・自動走行車等の町内の交通手段の情報を一元化し、ヒトやモノの最適な移動を提案するサービス(MaaS)を実現する。
- ・電子カルテ情報を、医療機関や在宅医療の診療の効率化のみならず、普段の健康づくり支援や見守り等にも活用する。
- ・センサー等から得られた観光客の流動・滞留の状況を分析し、観光戦略の立案に活用する。

これらを実現していくためには、システムの構築・運用を支える人材に加え、データを的確に分析し、様々な主体と連携して新規サービスの企画・開発を進めていくことのできる人材・組織を育成する必要である。IoT推進センター(仮称)を核として、ビジネスマッチングや技術支援を加速するための体制を構築する。

**④地域公共交通を効率的に運行するシステム**

生活を支えるサービスとして、交通手段の創出に向けて、自動運転の実証実験に取り組んでおり、実証実験によって得られた知見をもとに、大本山永平寺への観光利用、町民の買い物や通院等の生活移動を支えるために、永平寺版MaaSの構築を目指します。

観光利用に関しては、駐車場に関する情報提供や決済システム等を活用した駐車場マネジメント、えちぜん鉄道及び参るーどでの自動走行車両等を活用したシームレスな移動手段(観光MaaS)等を検討します。

生活移動に関しては、点在する集落から医療施設や商業施設、交通結節点に効率的に人を運ぶため、需要対応型のラストマイル交通と基幹的な公共交通とを組み合わせたシームレスな移動手段(生活MaaS)等を検討します。

**(4) 解決の方向性(イメージでも可)**

**①防災**

町民にとっての情報アクセスのプラットフォームが整備されることで、防災情報等の必要な情報にアクセスできる環境が整う。

**②交通・モビリティ**

コアシステムに掲載される移動などの各種情報を利用して運行の最適化を図ることができ、ヒトやモノの移動について、効率的で利便性の高い新しいモビリティサービスを提供することが可能となる。

**③行政効率化**

コアシステムの導入によりインフラの監視に係る人員の削減が可能になるほか、町民向けのインターフェースが整備されることによって窓口業務の効率化が期待されるとともに、企画系業務をはじめとした人員の再配置が可能となる。

**④医療・福祉**

高齢化が進む中、福井大学医学部附属病院と連携した在宅医療を行う町立診療所を2019年8月に開設する予定である。医療機関同士のカルテの共有などにIoT技術が活用することにより、どの医療機関でも適切な治療が可能な環境が整備され、在宅医療の需要に対応することが可能となる。

**⑤観光・地域活性化**

大本山永平寺に向かうルートの景観形成を含め、永平寺の魅力である「禅」の精神を活かしたまちなみの整備を進めることにより、観光誘客を促進する。また、観光情報をオープン化・活用の仕組みを構築し、外国人観光客の誘致を推進する。

**(5) その他**

・自動走行実証事業(経産省、国交省の実証地域に選定)

・IoTの推進

永平寺町IoT推進ラボ(経産省により地方版IoT推進ラボに選定)

IoT推進センター(仮称)の整備(サテライトオフィス、テレワーク、コワーキングスペース等を整備予定)

・MaaSの推進

永平寺町MaaS会議の開催(人や物の効率的で利便性の高い移動を実現するため、新たなモビリティサービスを構築)

・永平寺門前再構築プロジェクト(福井県、永平寺町、大本山永平寺)

旧参道の再生、河川改修、観光案内所(AIコンシェルジュ導入)整備、宿泊施設の建設

・町立診療所の開設(2019.8月開業予定)

福井大学医学部附属病院と連携した在宅医療の推進(総合診療医の配置)

**○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)**

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
総合政策課	永田敦夫	0776-61-3942	<a href="mailto:seisaku@town.eiheiji.fukui.jp">seisaku@town.eiheiji.fukui.jp</a>

# 永平寺町が目指すまちづくり

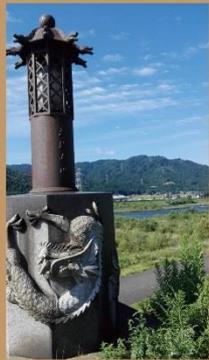
## 自然

永平寺町



## 癒し

心のやすらぎ



## Natural

## 最先端

永平寺町

# 融和



## 自動走行

えい坊くんのまちづくり株式会社  
福井県吉田郡永平寺町山9号1番地2  
(永平寺緑の村四季の森文化館 内)  
TEL・FAX：0776-63-3900  
e-mail：machidukuri@cap.ocn.ne.jp

## IoT

## Technology

## 伝統

永平寺町

人間らしく



禅  
ZEN

永平寺法堂

福井県 永平寺町

Eiheiji, Fukui

禅

ZEN  
Do you feel it?

Eiheiji, Fukui

生きる

福井県 永平寺町

## Tradition

# 永平寺町

E I H E I J I



永平寺町は、福井県北部に位置し西部で福井市、坂井市と隣接し、東部では勝山市に接しています。

- 人口 19,890人 (平成27年度国勢調査人口)
- 面積 94.43km<sup>2</sup>

## ■ 歴史文化資源

大本山永平寺、吉峰寺、松岡古墳群

## ■ 自然環境資源

九頭竜川 (サクラマス、鮎)

## ■ 特産品・農産品

日本酒、にんにく、ピクニックコーン、たまねぎ、れんげ米

## ■ 交通環境

北陸自動車道・中部縦貫自動車道 (IC5箇所)  
えちぜん鉄道 (11駅)



# 自動走行技術を活用したまちづくり

## 自動運転700人超利用

永平寺町 定時運行実験 1 ヶ月

### 住民や県外客 関心高く

### 速度、定員 観光面に課題

【全国から注目】  
実験は国立研究開発法人・産業技術総合研究所「三ノ宮」で、自動運転技術の活用を推進している町と、国立研究開発法人産業技術総合研究所（産総研）が、つづき、つづきは二十九日、定時ダイヤによる定時運行実験を開始した。来月二十日まで毎日七往復を運行し、地域住民や観光客らが無料で乗車できる。（福井県）

運行は、えちぜん鉄道の停留所がある、使用する永平寺町駅に隣接する「自動運転車」を「東山」から「大木山」まで、一人乗りが二台、二人乗りが一台、車いす乗車できる。途中に五ヶ所、可の五人乗り一台の計四台

で運用、安全確保のため運転手が同乗し、非常時などに手動運転に切り替える。ダイヤは東吉市、志比と

も始発は午前九時十分で、以後一時間に一本ずつ同時に出発し、最終は午後三時十分、最終時十二時で、東吉市、志比間を四十分

三分は途中の停留所「三ノ宮」ですれ違つた。初日は、東吉市の始発に地元住民五人が乗車し、乗客の自動運転技術に関心し、安心して乗車できた。ス

は、3000度を確保する車載カメラやセンサーを複数搭載し、自動運転車が電流を感知しながら自動走行する。永平寺町の定時運行実験で

「下り」はもう少し遅い方がいいかな」と話し、新時代の交通システムに期待を寄せた。

実験は障害物検知や安全停止などの検証を経て、住民らが乗り込んで到着を感知する設備へ入り、自動走行車の実用化に向けてスタートアップしている。町の担当者は「定時ダイヤ運行で住民ニーズを把握し、早期の実用化につなげてい」と話した。

土・日曜、祝日は予約もできず、乗車できないが、平日の乗車は予約が必要。愛しい坊さんのまちづくり会社（1778）（83）3900



## 永平寺町で実証実験

## 定時ダイヤ、1ヶ月無料



# 自動運転 住民らに開放

【全国から注目】  
実験は国立研究開発法人・産業技術総合研究所「三ノ宮」で、自動運転技術の活用を推進している町と、国立研究開発法人産業技術総合研究所（産総研）が、つづき、つづきは二十九日、定時ダイヤによる定時運行実験を開始した。来月二十日まで毎日七往復を運行し、地域住民や観光客らが無料で乗車できる。（福井県）



【全国から注目】  
実験は国立研究開発法人・産業技術総合研究所「三ノ宮」で、自動運転技術の活用を推進している町と、国立研究開発法人産業技術総合研究所（産総研）が、つづき、つづきは二十九日、定時ダイヤによる定時運行実験を開始した。来月二十日まで毎日七往復を運行し、地域住民や観光客らが無料で乗車できる。（福井県）



【全国から注目】  
実験は国立研究開発法人・産業技術総合研究所「三ノ宮」で、自動運転技術の活用を推進している町と、国立研究開発法人産業技術総合研究所（産総研）が、つづき、つづきは二十九日、定時ダイヤによる定時運行実験を開始した。来月二十日まで毎日七往復を運行し、地域住民や観光客らが無料で乗車できる。（福井県）

【全国から注目】  
実験は国立研究開発法人・産業技術総合研究所「三ノ宮」で、自動運転技術の活用を推進している町と、国立研究開発法人産業技術総合研究所（産総研）が、つづき、つづきは二十九日、定時ダイヤによる定時運行実験を開始した。来月二十日まで毎日七往復を運行し、地域住民や観光客らが無料で乗車できる。（福井県）

# 遠隔ドライバー1人が2台の車両を運用する 遠隔型自動運転の世界初の公道実証(2018年11月19日開始)



## 福井で世界初の公道実験

産業技術総合研究所と経済産業省、国土交通省などは19日、福井県永平寺町で1人の監視員(遠隔ドライバー)が2台の車両を運用する遠隔型自動運転の実験を開始した。運転手が乗っていない複数の車両を1人の遠隔ドライバーが監視・操作する実験を公道で実施するのは世界で初めて。ドライバー不足の解消やコスト削減につながる技術として実用化を目指す。

使用する車両はヤマハ発動機のゴルフカートをベースに公道を走れるように改

## 自動運転2台 遠隔監視1人

永平寺町の遊歩道「永来的なドライバー不足対応には車両に乗った保安係平寺参ろーど」で自動運転策やコスト削減につなげる狙いがある。公道での実験が全国でいち早く実現できたことについて産総研関係者は、実験区間にV交差点がないVほりなどの緊急車両が自動運転車に近づいた際に、どの車両に近づいているかを知らせる音声認識システムも新たに導入した。

同日志比の管制室で停留所での乗降確認などを車両1台につき1人が行っていたほか、すれ違い時

自動運転  
1人で2台遠隔運用  
永平寺町で実験 公道では全国初

## 産総研など、永平寺町で開始

1台の車両に問題が発生した場合は、もう1台の監視を続けることが困難なため、この車両も自動で停止する仕組みを採用。問題が解決した後には、2台が同時に再スタートできる機能なども盛り込んだ。また救急車など緊急車両のサイレン音を検知し、監視員にどちらの車両で検知したのかを注意喚起できるようにしている。

産総研などは永平寺町で、全地球測位システム(GPS)が機能しない山間部や積雪した道路のような過疎地向けの自動走行実験を進めており、今回もその一

2台がすれ違える機能も盛り込んだ

上 | 平成30年11月20日 日経新聞  
右 | 平成30年11月20日 福井新聞



車両に搭載されたカメラに異常がないか監視して映像を見比べながら運行していた。

産総研では3月末まで実験を続け、安全性の検証を行う予定。今後について「さらに複数台での運用や運転席に保安要員を置かない無人走行などができないか検討したい」としている。

今回の実験に当たり、国土交通省中部運輸局から1人が2台を運用する自動車運転の基準緩和の認定を受けたほか、県警、福井県から道路使用許可を受けた。(宮本幸直)

モニターで2台の自動運転車両を監視する関係者。19日、永平寺町志比

### < 実施体制 >

#### 小型電動カートコンソ(スマートEカート)

産総研

ヤマハ発動機(車両メーカー)  
日立製作所(電気メーカー)

慶応大学(大学)  
豊田通商(商社)

福井県

永平寺町

えい坊くんのまちづくり株式会社

京福バス



# ■ 地域医療を支える「永平寺町立診療所(仮称)」の整備

## 地域包括ケアシステム

医療



病院：急性期、回復期、慢性期



通院・入院



通院できない  
住民へは…

永平寺町地域包括支援センター

医療や介護のオータル  
コーディネートを  
行います。



住民



生活支援  
介護予防



介護  
施設入所



# 永平寺町が来春診療所



## 福井大病院と連携し開設

### 24時間対応の訪問診療

永平寺町は、福井大病院と連携して町立診療所を来春、開設する。二十四時間対応の訪問診療などに当たる「在宅療養支援診療所」の機能を持ち、幅広い診療知識を持つ「総合診療医」を配置し、地域住民が在宅で安心して診療を受けられる医療を目指す。



永平寺町立診療所の建設予定地  
地：永平寺町松岡兼定島

建設場所は福井大病院に近しい同町松岡兼定島で、老朽化した高齢者健康施設を取り壊し、跡地に新築する。来年四月に開業を予定。福井大病院は、町立診療所の指定管理者として医師を派遣し運営を担う。建設費や備品購入費など整備費は一億六千八百九十三万円、うち県から四千七百万円の補助を受ける。町と県が一〇一八年度一般会計補正予算案に、それぞれ整備費を計上した。

在宅医療（訪問診療）は、通院、入院に次ぐ第二の医療として位置付けられ、住み慣れた自宅で療養したいという患者の要望、介護との連携、入院病

床の削減といった観点から、国も診療報酬の増額などで在宅医療を推進している。

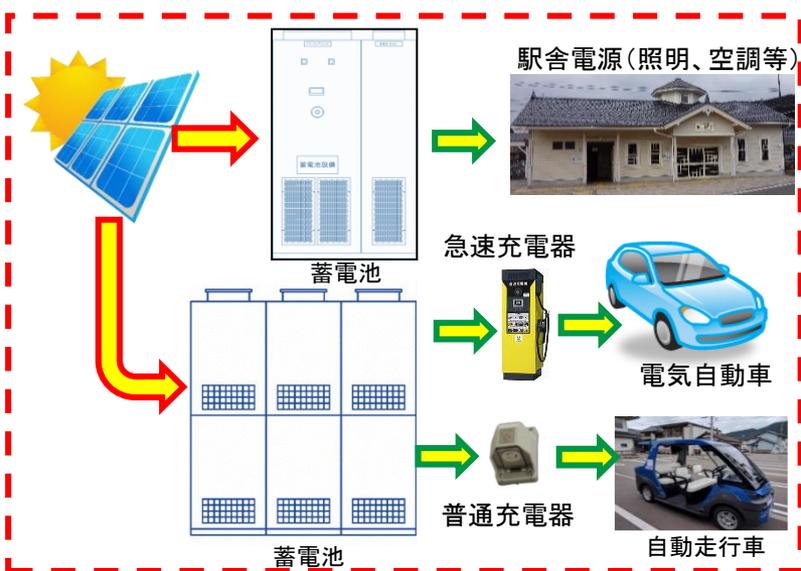
総合診療医は、特定の臓器や診療科に限らず、あらゆる観点から患者を診る医師で、在宅医療の中心となる担い手。福井大病院は総合診療医の育成に力を入れており、町立診療所は臨床経験を積み場としても期待される。

こうした動きは町内の医師にも歓迎されており、同町松岡兼定島二丁目「坂の下クリニック」（内科・消化器科・外科）を営む栗田浩史医師は「地域医療を担う地元の開業医は外来診療の合間をみて往診しているが、多くの患者の在宅医療まで手が回らない状態。行政と大学が協力して在宅医療に取り組むことは喜ばしいこと」と話す。

（藤井雄次）

# ■ 環境にやさしい再生可能エネルギーの導入促進

- 太陽光発電設備 → 駅舎や自動走行車の電源に活用
- 回生電力システム → 鉄道事業者のピークカットに活用
- 電力監視システム → 発電量や使用電力量を監視し、鉄道事業者の負荷抑制を実施
- 電気自動車充電器 → 一般車や自動走行車を充電



□ …太陽光パネル設置



変電所屋根部

自動走行車屋根部

この空中写真は、駅周辺のエネルギー設備の配置を示しています。赤い線は太陽光パネルの設置経路を示しています。

- 平寺町観光物産協会
- 地域交流館/永平寺口駅舎
- 永平寺口
- ずま美容室
- 電力監視システム（えちぜん鉄道本社内）
- 見える化モニタ
- 急速充電器
- 自動走行車用車庫
- 蓄電池システム（古市変電所内）
- 太陽光架台
- 古市変電所
- 太陽光架台
- 回生電力システム（太陽光パネル架台下）

# ■ 禅の空気を感じるまちづくり

2015.6.19 共同記者会見



宿泊施設整備、旧参道の再生、永平寺川の改修など  
**永平寺門前再構築プロジェクト**  
 大本山永平寺・福井県永平寺町三位一体で

6月19日(金)、福井県庁にて大本山永平寺、福井県、永平寺町で「永平寺門前の再構築プロジェクト」の共同記者会見を行いました。  
 外国人観光客にも対応した宿泊施設を整備し、旧参道の再生と永平寺川の修繕などを一体的に行い、凛とした禅の心を体験できる環境を整えます。また、広域観光の拠点としての観光案内所も整備します。  
 北陸新幹線の福井延伸や中部縦貫自動車道と北陸自動車道の直結により交通アクセスも良くなり、今後ますます観光客の増加が予想されます。福井しあわせ元気国体や東京オリンピックまでに整備を進め、県内外はもとより、世界に広く情報発信し、永平寺および本町の魅力をPRしていきます。



左から 大本山永平寺の佐藤監院、西川知事、河合町長 場所：福井県庁

# 始動